

Eureka XII

六年制通信 No.16 令和6年7月19日(金)号

毎日を懸命に

哲学者の西田幾多郎でしたか、退官の挨拶で自分の半生を総括して「前半は黒板に向かい、後半は黒板を背にして…」と述べたのは。それ以降、多くの大学人が最終講義の際にこの言葉を引き合いに出されているようです。西田博士は明治三年生まれですから、この言葉ももう優に百年以上は生きていますね。私も教師ですから考えてみれば同じで、黒板に向かい勉強し黒板を背に教えて現在に至っています。そしてこの時期になるといつも同じことを考えるのですが、小学校へ入学以来私はずっと夏休みのある生活をしているのだなと。もう半世紀以上ですよ。小中高の夏休みはあまり覚えていませんが、結構楽しかった気がします。大学は二か月以上休みがあって、これだけ聞くと天国のように思うかもしれませんが、私には少し楽しくかなり苦しい思い出しかありません。夏休み明けの恐怖が待っていましたから。先生にどのくらい勉強したかの報告をしなくてはなりませんから、まずこれが厳しいですよ。で、何とか叱られずにすんだとしても「ところで何を讀んだかね」と必ずお聞きになられるわけ。先生のお読みになられていない本だと内容を詳しく話さなければならないので適当に讀んだ本などを挙げることはできません。マンツーマンで大体二時間から三時間、まるで口頭試問を受けているかのような緊張が続くわけです。怖いでしょ。

しかし、先生のおかげで夏休みは勉強する習慣がつかまりましたので、今では感謝しかありません。今年も君たちに負けないように勉強しますね。幸せなことに今はクーラーもあるしね。学校の先生の理想の姿は『論語』の「学而不厭、誨人不倦」(まなびていとわず、(ひとを)おしえてうまず: 学んで嫌になることはなく、教えて飽きることもない) だと思っています。これからもこれを守って学んでいくつもりですが、考えてみればこの前半は何も学校の先生に限る必要はないですね。「学而不厭」は誰にでも言えることです。皆さんも一生学び続けるつもりでいてくださいね。

6年生の諸君は受験勉強に忙しいでしょう。この受験制度のある限り仕方ないことです。頑張ってください。他の生徒諸君は得意な教科を深掘したり苦手な教科を克服したりしながらも、必ず孤独な時間をもってたくさん本をお読みください。中高の皆さんは目先の利益に結びつかないことに時間を注ぐことができます。また、そうすべきです。目先の利益から最も遠いところにあるのが文学です。たくさんのお話に触れてください。私の先生は「利を生まぬ美は到底実利の効用の及ばぬ世界に触れうることを心にとめて、文学研究が…」と言っています。利を生まぬ美、それが私たちの先祖が残してくれた広く深い物語の海です。夏はこっちの海でたくさん泳いでください。

夏休みのおすすめ

・三省堂編修所 編 『文豪のことば探し辞典』 (三省堂)

明治のころ、漱石、鷗外、紅葉、四迷、露伴、鏡花、荷風たち文豪に選ばれた、豊かで奥深い「ことば」の数々をぜひお楽しみください、とのこと。すごい語彙が満載でっせ。朝涼(あさすず)：夏、朝のうちの涼しいとき。朝涼はいつしか過ぎて日かげの熱くなるに〈樋口一葉『たけくらべ』〉、こんな感じで、文豪たちの語彙と用例が挙げてあります。今はもう読めない言葉も多数ありますが、使ってみたくなる語もあります、いくつか拾ってみますので、君たちも使ってみませんか。

雨意(うい)：雨が降りそうなようす。雨模様。

夕暉(せつき)：夕日の光。夕日。

文品(ぶんぴん)：文章の持つ品格。

方寸(ほうすん)：心の中。心中。胸中。

恋着(れんちゃく)：忘れられないほど深く恋い慕うこと。

笑壺に入る(えつぼにいる)：笑いに興じる。大喜びする。

全部で千を遥かに超える語彙が掲載されています。是非手に取ってみて下さい。

・三島由紀夫 『復讐 三島由紀夫×ミステリー』 (河出文庫)

この本には、一年生の生徒諸君に読み聞かせをした『美神』も収録されています。『復讐』は有名な短編ですね。最後の一行を書くために物語を作ったような作品で、ミステリーというよりホラーかな。私は『美神』を読んでほしいですね。これ、学年が進むにしたがって読後感が変わってくるのではないかと思います。大理石のアフロディテ像を発掘した博士が亡くなる寸前に、発掘時にその像と交わした秘密を誇らしげに話すのですが、実際には博士の妄想に過ぎず…。発掘時の博士の心情があまりにリアルに描かれているため、秘密は真実であると読者は思ってしまいます。実は私は像との秘密は本当であってほしいと今でも強く願っております。

・芦沢 央 『神の悪手』 (新潮文庫)

藤井永世棋聖が誕生しましたね。21歳ですでに5連覇。王位戦に勝てば永世王位ですから永世2冠。もう一度叡王にカムバックして永世八冠になってほしい。また、西山朋佳さんがプロ編入試験を受けるとか。応援しなくちゃ。三段リーグを一期で抜けた藤井七冠ですが、最終局の相手が西山さんだったのですよ。

さて、私は観る将かつ読む将ですからついついこういう本を推薦してしまいます。芦沢さんは将棋のことに詳しいですね。上手にミステリーに仕上げています。短篇ですから将棋を知らなくてもとっつきやすいと思いますよ。

・福沢諭吉 『学問のすすめ』 (岩波文庫)

読みにくかったら、岩波現代文庫に現代語訳があります。冒頭の「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり」は誰でも知っているでしょうが、これだけしか知らない人もいるかも。この後、しかし実際には世の中は平等ではない、それは何によるのか…、と続くわけです。明治の青年たちを奮立たせた名著を君もどうぞ。

BGMは サザンオールスターズの 真夏の果実 でした…。